

三位一体の主日 2017.6.11

あふれるお方

ヨハネ3章 16-18節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。

説教

イエスの受難から復活、そして聖霊降臨までの記念の礼拝も先週でおわり、今週からはふつうの週となり、礼拝カラーでいえば緑がはじまります。

きょうの福音は短いながらも、聖書のなかの聖書とよばれているヨハネ3章16節からはじまっています。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。ヨハネ3：16

神とは、聖霊とは、キリストとはと考える前に、まずは「あふれる」というイメージを頭のなかで思い浮かべてください。湧き水でもいいし、コップのふちからあふれる牛乳でもいいです。とにかくこんこんと湧き出る泉でもいいし、あふれてもあふれても注がれるミルクでも構いません。

さて、神とは尽きることなく「あふれるお方」です。それはちょうど太陽が光と熱を地上にふりそそぐように、神さまからはすべての恵みが尽きることなくあふれてくる。とめどなく、あふれてくる。・・・私たちは、そのあふれてくるものを受けている。

その「あふれてくるもの」が「聖霊」です。私たちがそれを受けつつもりがあろうとなかろうと、ともかく神さまは、ご自分をおあふれさせてます。こんこんと、尽きぬ泉のように。私たちはその、あふれ出る神の恵みの中で、造

られ、生かされ、そしてそのあふれ出る恵みによって、永遠の命を得ている。この「天の父」、そこからあふれてくる「聖霊」、そしてそれを100パーセント受け取る「イエス」、この交わりの中に、私たちはいるんだっていうイメージ、これがキリスト教が伝えている三位一体のイメージです。

イエスは、このあふれ出てくるものをすべて受け止める、完全なる神の子です。でも、ざんねんなことに私たちは、ちゃんと受け止めていない。

だから、この完全なる神の子を、不完全な私たちはこの身に迎え入れることで、聖なる霊をちゃんと受け止めようじゃないか、洗礼をうけよう、聖なるパンとワインをいただこう、となるわけです。

不完全なわたしたちでもイエスを受け入れよう、信じることであふれる聖霊を、そして尽きることなく恵みを注いでくださる神の恵みを受け取ること、永遠のいのちを受け取ることができます。このイメージをもったまま、もう一度ヨハネ福音を聞きましょう。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。ヨハネ3：16

きのうも今日も、苦しいことやつらいことばかりでも、雲の向こうには太陽があり、そこではいつでも光がふりそそがれています。一人ひとりに注がれている神の祝福をわたしたちも、受け止めることができますように。
